日本建築学会

東北支部年報

第 22 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15 日本生命仙台勾当台南ビル4F
TEL 022-265-3404
FAX 022-265-3405
E-mail: aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp
http://www.arch.ce.nihon-u.ac.jp/~aij-tohoku/

巻頭言

― 「特色ある支部・支所活動推進」の具体化 ―

東北支部長　　岩 﨑　博

皆様ご承知のとおり、1999 年度の本部総会において、学会の社会的役割と使命について、「日本建築学会倫理綱領・行動規範」を決議し、決意を広く公にしたところです。その要点の中に、「・・・・それぞれの地域における固有の歴史と伝統と文化を尊重し・・・・」とあり、建築活動は、地域の「生活の器」としての観点から、当然なことですが、グローバルスタンダードだけでなく、ローカルスタンダードも重視し、社会に貢献する方針をアッピールすることになり、支部・支所活動もこれを基調に展開されることとなりました。当支部は、地域面積も広く、自然環境も豊かで、多彩で、独自の人文環境を有し、支部のみならず支所の存在が極めて重要で、その点からも、学会活動方針の具体化にふさわしい地域の一つと思われます。

さて、やや旧聞に属しますが、2000 年度、この趣旨に沿った形での大会が、これまでとやや異なり、地域ブロックの中枢都市を離れた中小都市郡山市で開催され、当支部でも仙台以外では、初めての経験で、延べ 2 万人以上の参加者を迎え、盛会でした。この開催から、地域にわけいり、より地域住民に身近なところでの開催は、言うまでもなく、建築が土地に定着する構造物であること、建築投資の過半が住宅であることから、学会は常に市民との相互交流・発信がきわめて重要であることを再認識させられました。

この経験から、支部・支所活動推進の一環として、本年 2002 年度から、支部活動の大きな柱の一つである東北支部研究報告会は、これを核として、参加者も関係者のみならず、市民をも含めた方々を対象に、その年度の東北地方における建築活動全体を俯瞰できるイベントとするべく、各支所長、常議員の方々等と検討を重ね、「研究活動」については、これまで同様、研究報告会の場を中心に、「設計・技術活動」の分野では、東北建築賞の授賞式と受賞者による記念講演会等を、「市民との相互交流」の場としては、時代ニーズに相応しいテーマによるシンポジウム、PD 等を企画し、この「3 つの柱」によるイベントを同時実施することとしました。さらに、開催地についても、従来、建築系の大学が置かれた地域での開催でしたが、本年からは、これにこだわらず、各支所所在地を含めた各地で開催したく思料しており、今年度は、その最初として、盛岡市で実施することになりました。また、これら新企画を総合した冠名を「みちのくの風　2002　岩手」とし、次年度以降も開催地名のみを変えながら継続冠名で展開することとしております。この他、総会時にもイベントを併設し、双方とも広報活動も十分行い、広くアッピールする所存です。

以上、支部・支所活動活性化のための様々な試みの一端を紹介いたしましたが、当地域の置かれた条件および学会への多様化する社会的要請から、支部・支所活動の益々の重要性に鑑み、これまで以上に各種イベント等についての工夫・企画立案の共同作業を地域住民の方々、建築関係諸団体、専門工事業関係団体とのさらなる連携強化のうえ実施していき、さらに頼りになる支部・支所にしたいと思います。よろしくご指導、ご協力をお願いします

もくじ

○ 巻頭言 ― 「特色ある支部・支所活動推進」の具体化 ― ・1
○ '01 建築文化週間講演報告・・・・・・・・・・・・・・・・・2
○ '01 親と子の建築講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
○ '第22回東北建築賞（作品賞）選考報告・・・・・・・・・・4
○ 第22回東北建築賞（業績賞）選考報告・・・・・・・・・・7
○ 第22回東北建築賞（研究奨励賞）選考報告・・・・・・・8
○ 第12回東北建築作品展表彰会報告・・・・・・・・・・・・・8
○ 第21回東北建築賞表彰式及び展示会報告・・・・・・・・・・8
○ 日本建築学会「作品選集2002」東北支部選考経過報告・・8
○ 2001年度日本建築学会賞（業績）東北支部推薦報告・・・・・9
○ 2001年度東北支部研究報告会報告・・・・・・・・・・・・・9
○ 2001年度日本建築学会東北支部総会報告・・・・・・・・・9
○ 研究部会活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10.
○ 支所だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
○ 常議員会から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
○ 支部役員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
○ 2001年度事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
○ 2002年度事業計画（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・20

’01 建築文化週間事業

「堤町まちたんけんワークショップ」

渋 谷 セ ツ コ(建築と子供たちネットワーク仙台)

堤町は，伊達政宗が仙台に居城を築き町割をしたとき，城下北端の守りとして奥州街道に沿ってつくった足軽町でした。このあたりは良質な粘土が採れるため，副業として焼き物づくりが奨励され，４代藩主伊達綱村のときに，江戸の陶工が技術を教えてから堤焼として発展しました。都市化の波が押し寄せ，１９７０年代に生産をやめるまで堤町はかめやどんぶりなどの生活陶器や，人形をつくる焼き物一色のまちでした。

2001 年６月２３日，小学生とその親２５名が参加して，この堤町を探検するワークショップを行いました。ひとりひとりが五感を使ってカメラを用いて観察しながら，堤町と，北側に広がる住宅地や南側を通る地下鉄北仙台駅などの新しい街並みを巡りました。

参加者が特に時間をかけて観たところが，堤町に唯一残されている登窯がある佐大商店です。この日，佐大商店では，堤焼のコレクションを展示する「堤焼佐大ギャラリー」がオープンしたばかりです。

六連の登窯には，ほうろくやすり鉢などの陶器が積み上げられているほか，釉薬の岩石も種別ごとに整理されて並べられています。登り窯の上屋になっている旧作業所には，江戸時代からの堤人形や明治時代の水甕，鬼瓦などが展示されています。子供たちは，長い間に釉薬が飛び散って，まるで陶器のようにつるつるになった窯の煉瓦や，人がすっぽり入るくらい大きい甕を珍しそうに写真におさめていました。また，昔から使っている型を使って，粘土で堤人形をつくる体験もしました。

探検終了後は会場の市民センターに戻り，「気にいったもの」，「気になるもの」，「気がついたこと」，「堤町にあったらよいと思うアイデア」など，それぞれ観てきたこと，感じたことを発表しました。

写真コメント：登窯を見学する親子

’01 親と子の建築講座

～弘前を知る Part２～

棟梁建築家 ”堀江佐吉 ”の業績をたどる

古 跡 昭 彦（青森県立弘前工業高等学校）

弘前市には、明治期に活躍した棟梁建築家”堀江佐吉”が建てた建物が数多く現存しています。その建物を見てまわり、郷土を再発見してもらう事を目的に、平成１３年８月２５日に３３名の参加者を集め、親と子の建築講座を開催しました。

見学した場所は、佐吉が１６歳の時に造った欄間飾りのある専徳寺、明治３７年に建てられた旧第五十九銀行本店本館、明治３９年に建てられた旧弘前市立図書館、明治４０年起工したが竣工を見ることができなかった旧弘前偕行社、佐吉の弟子の西谷市助が建てた盛美館の５棟でした。最初に佐吉のプロフィールを説明し、建物の簡単な紹介して見るべき観点を確認してもらった後、それぞれの見学場所を巡りました。参加者達は、見学場所でスタッフ（生徒）の説明を聞き、私たちがつくった資料とパンフレットを参考にし、時に普段は見学できない場所を今回の企画のために特別に見学させてくれた場所などを、配給された使い捨てカメラを使って写真にすかさず収めるといった事をしながら、佐吉の作品を鑑賞してもらいました。見学後会議室で、スタッフが撮ったデジタルカメラの映像を見ながら、再度説明を加え、理解度を高めてもらい、その後、写真や資料を参加者それぞれが編集して、一つのファイルにまとめてもらいました。

参加した親子達からは”近くに素晴らしい建物があったことを初めて知った。勉強になった。当時の高い技術に驚かされた。次回も是非とも参加したい。”という感想をいただき、好評を得ました。また、この事業を地方新聞の２社が、記事として大きく掲載してくれました。

佐吉が明治期の建物建設に大きな功績を残したを知ってもらったが、これをきっかけに、現存する多くの文化遺産の建物を見て回るきっかけとなってくれれば、そして、郷土弘前を再認識していただければと願っています。

「建築 CAD によるアニメーション作成」

江 川 嘉 幸（山形県立産業技術短期大学校）

平成 13 年 11 月 10 日に、山形県立産業技術短期大学校において、親と子の建築講座「建築 CAD によるアニメーション作成」を開催しました。

講座の内容は、小学生の親子を対象に建築 3 次元 CAD GRAPHISOFT Ver6.5 を使用して自由な形状の小住宅を入力し、内観、外観パースやウォークスルーアニメーションを作成し、建築の楽しさを体験してもらうというもので、募集定員を上回る 13 組 26 名の親子が参加しました。講座では最初に CAD の概要説明と建築業務にどのように使われているか平易に解説し、その後、大型スクリーンに操作を実演し、親子が各自の CAD を操作するという手法で入力を進めました。なお、親子 2 組に 1 名の学生アシスタントを配置し、操作の補助を行いました。

和やかな雰囲気の中、親子で話し合いながら入力を進め、個性豊かな形状・色彩の住宅が出来上がりました。時間の関係で、アニメーション処理が時間内に終わりませんでしたが、後で自宅のパソコンで再生可能なデータ形式で CD-ROM に保存したものを配布しました。

今回の講座を通じ、子供たちに CAD を活用した建築デザインの楽しさを体験してもらい、十分興味を持ってもらえたようです。

夢中で取り組む親子

講座風景

「2001 年度親と子の建築講座開催報告」

企画運営委員　**細 田 洋 子**

仙台会場は、歴史的な建造物が点在する，旧奥州街道に沿った荒町から河原町までの街並みを五感を使って探索し，気に入ったところなどをみつけてみようという「奥州街道まちたんけん」（共催：仙台市街並みデザイン課，指導：渋谷セツコさん）を実施しました。

2001 年 8 月 24 日、仙台市の景観サポーターなど市民 51 名と小学生 14 名が参加。街歩きとらのまきマップとカメラを手に，途中，地元の方々にふれあいインタビューを行いながら，ところどころ鍵型に曲がる城下町特有の道約 2.5 km を歩きました。

昔ながらの間口 3 軒、奥行 30 間の敷地が並ぶ荒町では，398 年の麹づくりの伝統がある銭形屋さんで麹を味わったり，東九番丁では伊達政宗が愛用した仙台竿をつくっているという職人さんの竿づくり実演を，南鍛治町では仙台箪笥の工程を見学しました。藩政時代から薬種業を営んでいたという南材木町の丸木さんの蔵では，200 年前に建ったという蔵の２階にあがって，昔だったら見下ろすことなどできなかったという格子窓からの街道の眺めを楽しみました。

こうして，230 年前のお寺の屋根にのっている龍の形の棟瓦，材木店にある明治時代の大鋸などたくさんのお気に入りを発見することができました。ゴールの南材木町小学校では，撮ってきた写真を整理し，街並みにほしいと思うアイデアなどを考えて探検報告書にまとめました。

「建物のひみつ『かたちとつよさ』」

倉 田 光 春（日本大学工学部）

－「普段何気なく生活している建物、その建物にはたくさんの『かたち』と『つよさ』そして『うつくしさ』が潜んでいる。そんな建物のひみつを、子供達の感性によって理解してもらおう。」－

平成 13 年 10 月 21 日（日）、福島県郡山市ふれあい科

学館スペースパークにて、「建物のひみつ『かたちとつよさ』」（講師：倉田光春・日本大学教授）を開催しました。

午後1：30から2時間半、計45人の親子が参加しました。今回は昨年度までの内容に新たな試みを多く付け加え、バラエティに富んだ講座となりました。

講義では、既存の建物のスライドを用いて、身近な建物に三角形や円が使われていることを説明し、それと同時に、アーチ構造やラーメン構造の簡単な模型を用いて、参加者自身で『かたち』による『つよさ』を体験してもらいました。また、実物大の木造アーチ模型を組み立て、実際に渡ってもらったり、『かたちとつよさ』をコンセプトとした様々なCGも紹介しました。

そして紙模型作成では、これまでの既存の展開図の他に、パソコンを使って参加者自ら模型をデザインしてもらう、新たな試みも行いました。

始めは静かだった会場が、講座が進んで行くにつれ子供達の楽しみの声でいっぱいになり、講座の最後には、とても素敵な笑顔であふれる記念写真を撮ることができました。

建築不況と言われる現在。未来を抱えている子供達に、本講座によって少しでも建築に夢や希望をもってもらえたら、開催者としてうれしく思います。

第22回 東北建築賞(作品賞)選考報告

選考委員長 **菅 野 實**

●応募総数

小規模建築物部門8点、一般建築物部門19点の合計27点

●事前打合せ会 2001年9月27日、支部会議室

応募作品の確認を行ったうえ、審査委員長を選出して作品発表会の開催要領を審議し、さらに、選考基準などの審査方法を審議した。いずれも昨年度の方法にならうことが確認された。

●第1次審査会 2001年10月20日、仙台市情報・産業プラザ（アエル）6Fセミナールーム

応募された27作品について、1点あたり発表9分、質疑2分の計11分で、公開による作品発表会を行った。その後、引き続いて第1次審査会を開催した。なお、作品発表会を欠席した1作品を応募条件違反として失格とした。

作品発表会における発表・質疑応答をとおして、各作品に対する理解がかなり深まっている状況をふまえ、ただちに投票を行った。すなわち、小規模建築物部門において3点以内を、一般建築物部門において10点以内を各自投票した。その結果、まず、5点以上獲得した12作品（小規模1、一般11）が、第2次審査へ進むこととなった。次いで、小規模部門で4点を獲得した3作品の中から2作品を意見交換をした上で投票により選考した。その結果、合計14作品（小規模3、一般11）が2次審査へと進むこととなった。

最後に、現地審査の割振りが審議され、審査員1人あたり3〜6点、1作品あたりでみると、最低3人の審査員が同じ作品を現地審査することとした。

●第2次審査会 2002年1月17日、支部会議室

最初に各自が現地審査を担当した作品について、A・B・Cのランク付けをした。Aランクは東北建築賞にふさわしい作品、Bランクは審議により賞に入選可能な作品、Cランクは賞に及ばない作品を目安に判定することにした。次いで、作品ごとに、すべての作品について、現地審査担当委員から結果を報告してもらい、他の委員から質疑応答を行った。そのうえで、投票と合議により、一般部門4作品を作品賞として選考し、小規模部門1作品、一般部門2作品を奨励賞とした。

●選考結果

＜作品賞＞

○福島県男女共生センター

発注者　福島県
設計　槇総合計画事務所
構造：花輪建築構造設計事務所
設備：総合設備計画
外構：オンサイト計画設計事務所
土木：サンキコンサルタンツ
監理　福島県土木部都市局営繕課
槇総合計画事務所
施工　西松・野地特定建設工事共同企業体

○朝日町エコミュージアムコアセンター　創遊館

発注者　山形県朝日町
設計　スタジオ建築計画
構造：TIS&PARTNERS
設備：（機械）科学応用冷暖研究所
（電気）設備計画
（ホール）ACT環境計画
（音響）永田音響設計
（照明）近田玲子デザイン事務所
（オブジェ家具）藤江和子アトリエ
（外講）背景計画研究所
監理　スタジオ建築計画　朝日町建設課
施工　熊谷・山形・大東共同企業体

○比内町福祉保健総合センター　ハートヒルとっと

発注者　秋田県比内町
設計・監理　深瀬啓智＋（株）蔵王建築設計事務所
構造：㈱U構造設計
電気：江口企画
機械：㈱仙台総合設備計画
施工　飛島建設・イトウJV

○山形村立繋小学校

発注者　岩手県山形村大字繋20-36-1
設計・監理　ゼロ建築都市研究所
構造：構造コンサルタンツ・田村研究室・SSC構造設計室
設備：郷設計研究所
施工　蒲野建設

設　　備：ユアテック
鉄　　骨：安藤鉄工建設
膜 屋 根：太陽工業
カーテンウォール・FRP 屋根： コスモプラント

＜作品奨励賞＞

○亀舎（下山邸）

発　注　者　　下山昌秀
設計・監理　　アトリエ タアク 一級建築士事務所
構造：三上構造設計事務所
電気：和電工業
機械：興産設備工業
施　　工　　長谷川工務店

○小坂鉱山事務所

発　注　者　　秋田県小坂町
専門家協議会　　元東北大学教授（建築史・意匠）坂田泉
東北工業大学教授（建築構造）小野瀬順一
東北芸術工科大学助教授（建築構法）山畑信博
修復・保存指導　（株）文化財保存計画協会 矢野和之
設 計･監 理　　（株）関・空間設計
同 上 協 力　　（株）総合設備コンサルタント
施　　工　　小坂建設（株）
電気：同和工営（株）
機械：熊谷施設工業（株）

○雄勝硯伝統産業会館新館

発　注　者　　宮城県雄勝町
設計・監理　　松本純一郎＋伊藤邦明
構造：相原俊弘（SDG）
設備：佐藤英治（ESA 設備設計）
家具：坂本和正（方円館）
施　　工　　飛島建設

●作品賞選考委員会

（委員長）　菅野　　實　（東北大学 教授）
板垣 直行　（秋田県立大学 講師）
梅津 光男　（八戸工業大学 教授）
小山 祐司　（東北工業大学 講師）
黒田 浩司　（日本大学 教授）
鹿戸　　明　（東北文化学園大学 助教授）
橋本　　寛　（日本大学 助教授）
松本 真一　（秋田県立大学 教授）
若松 信行　（(株) 若松六本木設計 代表）
渡辺 佐文　（(株) 渡辺佐文建築設計事務所 代表）

●講評

今回の選考を通して改めて企画や計画の重要性を確認することになった。今の時代が求めている新しいアーキタイプの出現、複合のプログラムをもった地域施設、地場を大事にし一段と高揚させる使命を担ったもの、永年親しまれてきた歴史的建築の復原・再生等、緊縮財政の下でもどうしても必要な建築として、まちづくりにおける重要な役割を担って構想されたものばかりである。発注者に限らず幅広い関係者の永年にわたる真摯な検討が、今のそしてこれからの時代に相応しい新機軸をもった企画・計画となり、優れた建築を生み出す源となっている。

＜作品賞＞

○福島県男女共生センター

難しい敷地条件を苦も無く克服し、素晴らしいロケーションを最大限に活かした作品である。高低差 12M の敷地は各々のレベルで二つの道路に接している。その高低差はカスケードと呼んでいる一階から、二階のサンクガーデン、三階の中庭へと階段で結ばれている。実に軽妙な建築空間のなかでこの高低差が巧みに処理されている。宿泊研修部分は丘の緑に囲まれてプライバシーを保ち、一方では霞ヶ城、安達太良山に解放されレストラン等が配置されている。利用者の活動が内外のロケーションを背景に生き生きと写る建築である。ルーバーはこの作品にもう一つの表情を与えている。内部には研修施設としての落ち着きと、外部へは風土に対する間合いへの配慮と受け取りたい。

○朝日町エコミュージアムコアセンター　創遊館

街と里山の自然との境界に位置する敷地の特性を読みこなして、町が掲げる「エコミュージアム」構想に明確な解を与えている。即ち、里山に対して、土を載せ植物を生育させた斜面の大屋根を設けて同化させ、その下に学習・文化活動のスペースを設けて街側に開く構成としている。ホール、図書館、ワークルームといった主要諸室がモール状のフォーラムにシンプルに連繋され、気持ちの良い質の高い空間として仕上げられている。これらが住民の支持を得て高い利用率となって現れている。内装材として用いられている地場のスギ材は、ややもすれば煩わしく感じるその色合いを適度な塗装を施すことによって洗練され落ち着いた雰囲気を醸し出すことに貢献している。

○比内町福祉保健総合センター　ハートヒルとっと

多雪地域の公共施設は得てして重厚になり勝ちであるが、この作品は軽快で明るい。薄く軽やかな屋根によるところが大きいが、強い卓越風を利用して屋根雪を吹き飛ばせるという裏付けから来ている。分棟型の配置は、インティメートなスケール感に寄与している。日照や風など外部環境の制御や眺望の確保、動線の処理と演出などから見ても、不整形の敷地におけるこの配置計画は巧みである。高齢者がこの施設を利用して享受できる日常生活は、紋切り型の福祉施設におけるものとは一線を隔している。土地柄を適切に掌握し、それをデザインに忠実かつ巧みに反映させ、住宅のそれに近いスケール感を創出している点で際立っている。

○山形村立繋小学校

山村集落における極小規模小学校の建替えに際して、統合の手法を勇気をもって棄却し、「みんなでつくるみんなの学校」をコンセプトに地区拠点として見事に再生させた。少子化による小規模校化の進行に対する発注者の明確なメッセージが伝わる。交通条件を問題とせず現地に何度も足を運んで住民とともにつくりあげた設計者の真摯な努力とともに、地域施設の整備過程全般が賞賛に値しよう。学校を構成する諸室と地区集会等の諸室など十分検討された用

途構成の2棟の木造棟を広場（体育館）を挟む形で配置し、その上を膜構造のドームで覆うというユニークな空間構成は、このコンセプトを直截に表現しているように思える。

＜作品奨励賞＞

○亀舎（下山邸）

30代の若い4人家族の住まいで、極限までコストを削減した建設への堅い意志と空間への熱い思いを感じさせる施主と設計者の労作である。建物外壁はRC打放し・外断熱、柿渋塗りの板格子で囲まれた中庭の外観は、内部空間へのいっそうの思い入れを窺わせる。その内部は、2階建てでL字形に領域化されている以外オープンな構成となっている。家族の成長とともにどのように変容していくのか。楽しみな住まいである。

＜作品賞＞「福島県男女共生センター」

＜作品賞＞「比内町福祉保健総合センター　ハートヒルとっと」

○小坂鉱山事務所

明治38年に創建され正面にサラセン風ポーチを備えた白漆喰壁のルネサンス風木造建築である旧小坂鉱山事務所を移築復原したものである。旧状の2段造成土地形状を人工地盤にて復元し、テクスチャー、施工法まで旧状に復するような丁寧な検討が行われ復原されている。さらに、積極的な文化財活用をめざし、防災避難・構造補強・バリアフリー化のためのエレベータの敷設などが周到な検討のもとに実施されている。

○雄勝硯伝統産業会館新館

町の伝統的な硯産業の歴史を伝える既存館の小さな駐車場用地に増築された地域文化活動の展示スペースである。雄勝石スレートを現代素材のチタンと使い分けるなどして地場産材活用の新たな可能性に挑戦している。また、力強い形態操作でシンボリックな表現としているのは、もう1つの町産業の源である海を含めた町全体のランドマークとしての役割を考慮しての結果である。小つぶながら意欲的な作品である。

＜作品賞＞「朝日町エコミュージアムコアセンター　創遊館」

＜作品賞＞「山形村立繋小学校」

＜作品奨励賞＞「亀舎（下山邸）」

＜作品奨励賞＞「雄勝硯伝統産業会館新館」

＜作品奨励賞＞「小坂鉱山事務所」

第２２回東北建築賞（業績賞）選考報告

東北建築賞業績賞選考委員会委員長　**内 海 康 雄**

「古民家の現代的再生　―断熱・気密改修技術の確立に向けた一連の業績―」

受賞者　安井妙子（安井設計工房）

寒冷地の古民家について、高断熱・高気密化という手法を提唱し、その技術の開発と普及を通じて、古民家の再生と活用を続けてきたことが高く評価される。

その活動は、１９８０年中期から始まり、宮城県、新潟県、岐阜県、岩手県にわたり１４件を数える。提出された資料は、実測値などの客観的情報、社会的評価に関する資料、実績の紹介など４０点強と広範かつ膨大であり、これまでの設計と普及における活動および設計の考え方をあまねく示すものであった。１９８０年代は東北地方の住の温熱環境について本格的な実測が緒についた頃であり、本業積のような古民家の改修はそれ以前にはほとんど例が無い斬新な発想である。

しかし、古民家の優れた空間構成をできる限りそのままにして、快適な生活環境を提供しながら、古い民家を保存するという難しい課題があった。そこで、そこに住んでいる家族の意見を聞きながら、高断熱・高気密という新しい技術を駆使して、古民家の再生を行い、住まい手から極めて高い評価を得ている。この実現のためには、例えば、室温、湿度など検証に必要なデータの収集と設計・施工へのフィードバックなどという手法の改良と普及が大きく寄与している。これらの活動に基づいて、日本建築学会などをはじめとして各地での講演・発表会が開催されており、その成果は全国的にも認められている。またこれまでの業績の集大成ともいえる著書が出版されている。

以上より、本業積は、建築水準の向上と発展に寄与し、また建築学会と地域社会の交流を図ったと言えるものであり業績賞に値するものと認める。

業績賞選考委員会委員

・渋谷純一（構造部会）
・金子佳生（材料部会）
・小栗治男（施工部会）
・谷津憲司（建築計画部会）
・増田　聡（地方計画部会）
・小山祐司（歴史意匠部会）
・内海康雄（環境工学部会）
・佐々木一夫（東北建設業協会連合会）
・二郷　精（常議員）

第２２回東北建築賞研究奨励選考報告

選考委員長　**月 永 洋 一**

選 考 日：2002 年 1 月 30 日
選考会場：日本建築学会東北支部会議室
選考委員：東北支部研究委員会７部会から各２名、常議員１名、計１５名
構造部会／阿部良洋、山田大彦、材料部会／出村克宣、三橋博三、施工部会／四戸英男、月永洋一、建築計画部会／小野田泰明、青木恭介、地方計画部会／石坂公一、阿部成治、歴史意匠部会／飯淵康一、熊谷広子、環境工学部会／石川善美、松本真一、常議員／橋本典久
候　　補：３件
・候補者：勝畑敏幸（日本大学工学部）、論文名：硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントモルタルの自己修復機能の検討
・候補者：本多和恵（ふくしま建築住宅センター）、論文名：児童への建築教育の可能性に関する研究
・候補者：坂口大洋（東北大学）、論文名：日常生活圏からみた舞台芸術鑑賞行為の発展過程－都市型ホールを事例として－
選考結果：候補３件を研究奨励賞に値するとして決定
選考経過：

候補３件は、各専門分野における予備審査を経て残されたものである。本選考委員会では、これを踏まえてそれぞれの専門分野の委員から、研究の内容、発展性、新規性、独創性などについて説明と意見を述べてもらった。次に、出席委員による意見交換を行った後、欠席委員の委任状を確認し、研究奨励賞としての賛否を集計した。この結果、候補３件とも、今後の発展が期待できる萌芽性のある研究であると認められ、研究奨励賞を贈るに相応しい研究であると決定した。

第 12 回東北建築作品発表会の報告

常議員　**鹿 戸　明**

第 12 回東北建築作品発表会は、平成 13 年 10 月 20 日(土)に仙台市情報・産業プラザで開催された。発表作品数は、第１部門の小規模建築物８点、第２部門の一般建築物 19 点の計 27 点であった。

昨年と同様に本年も、会場でのプレゼンも選考の対象にされることから、選考委員と発表者の間で活発な質疑応答が繰り広げられた。なお、１点については、発表者が欠席であったので、当日後刻の第１次選考会では、規定を遵守して選考対象から除外せざるを得なかった。

また本年は、審査委員長の発案で、参会者相互の懇親を深る趣旨で昼食懇談会を設けたが、大変有意義であった。

最後に、発表会が滞りなく実施できたことに、建協会、建築士会をはじめ、ご後援いただいた各団体に感謝申し上げたい。

第21回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員　**鹿 戸　明**

第 21 回東北建築賞表彰式及び作品紹介の会は、平成 13 年５月 26 日(土)に、仙台市のハーネル仙台で、東北支部総会に引き続いて開催された。

業積賞１件については谷津、作品賞３点及び審査員特別賞３点については菅野の、各選考委員長による審査講評が行われた後、岩崎支部長から受賞者各位に賞状、賞杯が贈られた。その後、作品賞・審査員特別賞の 6 点について、設計者によるスライドを使った作品紹介が行われたが、1 作品 10 分足らずの時間配当に協力していただき恐縮している。

閉会後には、席を改めて懇親会が催され、質疑応答や意見交換時のコミュニケーション不足が幾分なりとも補われた。なお、例年通り、東北管内の各支所においてパネルによる作品の巡回展示(一般公開)が実施される運びとなった。

日本建築学会「作品選集 2002」東北支部審査報告

東北支部審査委員長　**相 羽　康 郎**

上記審査結果の概要は以下のようになる。

審査日・会場：書類選考　７月２３日（支部会議室)。現地審査　８月２１‐２３日（現地)。

審査員名：勝部民男、鹿戸　明、阿部和彦、千葉正継、今　隆、村井弘道

応募数と選考結果：10 点応募。A‐２点／B‐２点／C‐２点を支部として推薦（うち作品選集掲載４点)。

審査にあたり、審査方法をまず話し合って、現地審査は全員で一緒に回る方法とした。これは過去の審査方法を御存知の委員からの意見にもとづき、審査の分かりやすさを考えた結果である。書類審査では応募作品 10 点について、現地見学を希望する作品を投票した結果、最終的に７作品が選定された。他の３点についても現地に近い複数の委員が別途見学するように担当を決めた。予算が限定されているため、７人がぎりぎりで乗れるレンタカーを手配し、委員には御辛抱を頂きながら、青森、岩手、秋田、山形と２泊３日をかけ走破した。

応募書類情報ではコンセプトの明解さやプランの論理性などが、評価されやすい。写真情報でもおおよその評価は可能であるが、現地に行かないと分からないことも数多い。書類審査で票の多かった２点のうち現地審査でもその微妙な光の空間の濃密な感じが評価された１点は A ランクに決まり、もう１点は現地審査の結果 B ランクとして推薦することになった。主に内部空間のあり方に異を唱える委員が多かったためである。これに入れ替わって A ランク２

点目として推薦された作品は、建築アプローチ部分の写真が印象を悪くしていたが、現地では内部空間等が丁寧に造作されており、また地域の中でスケールも程よく、風景としてうまく溶け込んでいて、好印象に変わったためである。

現地審査を行ってみて、改めて建築の視覚的な特質について考えさせられた。まず周辺の大きな環境のなかに存在し機能している有り様、特に利用者や地域の人々が、どう感じているかを感じ取ることから伝わる建築の地域での好ましさがある。建物内では、プランの明解もさることながら、随所にある居心地の良い場所、雰囲気、さらに建築を維持する側、利用する側の使い心地などが重要である。これらは現地に行くことでより把握しやすい特質である。なお本部審査では、書類、現地両面で評価の高かった A ランク１作品とともに見学後評価が入れ替わった A、B ランク２点、さらに一部委員の評価はあったが C ランクとされた１作品が掲載決定となった。

2001 年度日本建築学会設計競技東北支部選考報告

審査委員長　**北 原 啓 司**

本年度の課題「子どもの居場所」
審査日：10 月 16 日
審査員：渡邊浩文、鹿戸　明、永井康雄、細田洋子、北原啓司

今年度の設計競技には４点の応募があり、2001 年 10 月 16 日に支部会議室において審査会が開かれた。審査員（敬称略）は、鹿戸明、細田洋子、永井康雄、渡邊浩文、北原啓司の５名であり、互選により委員長に選任された私が、以後の審査プロセスを進行していくこととなった。

「子どもの居場所」という課題に対して予想できるいくつかの解答の一つは、空間ではなく装置（仕掛け）であった。しかし、応募作品のほとんどは、装置を提案することによって、逆に空間や時間を限定してしまい、狙いであるはずのノマド的な様相を、残念ながら喪失してしまっていた。

その中にあって、支部推薦に決定した小地沢チームの作品は、「ひきだし」を用意することによって、空間と時間に無限の広がりの可能性を与えている。しかも、それは子どもの声を借りた、地域に対する熱いラブコールでもある。この「ひきだし」が豊かな意味を持つには、地域がおもしろくなければならない。表面的な地域の活性化ではなく、懐の深さが必要とされるのである。

三沢市の寺山修司記念館で、懐中電灯を使いながら、「ひきだし」の中をじっくりと眺めた時の不思議な感覚が、この作品からも微かに伝わってくるような気がした。

全国審査でも、そんな期待感とある種の懐かしさが、好成績につながったように思われる。

2001 年度東北支部研究報告会

常議員　**松 本 真 一**

2001 年度東北支部研究報告会は，2001 年 6 月 16 日（土），17 日（日）の両日，秋田県立大学システム科学技術学部（本荘キャンパス，本荘市）を会場として開催された。2 日間（初日：13 時～17 時，2 日目：9 時～12 時）にわたり，1 題あたり 10 分（発表 7 分，質疑 3 分）の持ち時間による講演発表が延べ 130 題について展開され，活発な討論がなされた。130 題という講演題数は，2000 年度の 149 題，1999 年度の 133 題を下回るものではあるが，筆者個人としては，支部研究活動は益々充実・活性化している印象を持つ。講演論文は「日本建築学会東北支部研究報告集第 64 号（構造系・計画系 2 分冊）に収録・刊行された。

2001 年度の研究報告会の特徴は，①久しぶりに秋田県での開催の運びとなり，地元から多数の参加があったこと，②2 日間にわたる開催となったこと，③プレゼンテーションの道具として，OHP に加えて PC プロジェクタを初めて導入したことである。

開催地との間の交通の便を考慮し，また，1 題当たり持ち時間をこれ以上短縮しないこと，同じ分野の研究発表が別会場で同時進行することを避けることを目的として 2 日間にわたる開催となったが，交通の便が最優先されたため，他の 2 つの目的は十分達成できなかったことが残念である。PC プロジェクタについては，講演者持込み PC 側の問題による不具合が 2，3 あったが，発表順序の入れ替えなど司会者による対応により，大きなトラブルには至らなかった。概して PC プロジェクタによる講演は好評であった。

なお，初日 17 時 15 分から約 1 時間半，会場内のカフェテリアにて懇親会が開催され，約 70 名の参加のもと，和やかな歓談が繰り広げられた。本年度の研究報告会の開催準備に当たられた，秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科各位に感謝する。

2001 年度日本建築学会東北支部総会議事録

記録担当：**浅 里 和 茂**

日　時：2001 年 5 月 26 日（土）　午後 1 時より
場　所：ハーネル仙台（仙台市青葉区本町２－１２－７）
出席者：岩崎博支部長以下 26 名

資　料
資料 No.1：日本建築学会東北支部年報第 21 号
資料 No.2：2000 年度日本建築学会東北支部財産目録

2000 年度日本建築学会東北支部収支決算書
会計監査報告書
2001 年度日本建築学会東北支部収支予算書（案）

野村希晶常議員の開会宣言の後，同常議員の司会により，以下の要領で総会が行われた。

1．議事録署名員の選出
出席者の中から議事録署名員として，佐賀武司氏および志田正男氏が選出された。

2．支部長挨拶
岩崎博支部長の挨拶があった。

3．出席者数および委任状の確認
出席者 26 名，委任状 51 通，合計 77 の確認があり，東北支部会員 1485 名の 1/30（50 名）以上にあたるため，本総会が成立することが確認された。

4．議事
東北支部規程により，岩崎博支部長が議長を務め，以下の事項について審議された。

（1）2000 年度事業報告
浅里和茂常議員より，資料 No.1 の支部年報 16 および 17 ページの「2000 年度事業報告」にもとづき 2000 年度事業が報告され，承認された。

（2）2000 年度収支決算報告
滝田貢常議員より，資料 No.2 の 1 および 2 ページの「2000 年度日本建築学会東北支部財産目録」および「2000 年度日本建築学会東北支部収支決算書」にもとづき 2000 年度収支決算が剰余を含む黒字決算であったことが報告され，承認された。

（3）会計監査報告
高橋純一監事より，資料 No.2 の 3 ページの通り 1999 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告され，承認された。

（4）2001 年度事業計画（案）について
渡邊浩文常議員より，資料 No.1 の支部年報 18 および 19 ページの「2001 年度事業計画（案）」にもとづき 2001 年度事業計画が説明され，承認された。

（5）2001 年度日本建築学会東北支部収支予算書（案）について
滝田貢常議員より，資料 No.1 の 4 ページの「2001 年度日本建築学会東北支部収支予算書（案）」の説明があり，以下の質疑が寄せられ，調査の上，回答するとした後，承認された。

・質疑応答

質疑
決算書における（収入－支出）の金額と財産目録の当期過不足金との相違はなぜか。

回答
当期過不足金は前年度末と本年度末の差額であり，これに前年度繰越金を加えると決算書と同額となる。

質疑
予算書の繰越金と決算書の剰余との相違はなぜか。

回答
この分の差額は，事務所賃貸料前払い等のための運用財産であり，財産目録の現金および預金の部に計上している。これを予算に仮払金等の項目を作って計上することは，学会の会計規定により行えない。

質疑
繰越金の大部分を基金積立金として，再度支出しているのはなぜか。

回答
剰余金を支部の基金として積み立てるためには，総会の了承を得なければならないため，収入に計上した上で，再び支出に計上しなければならない。また，差額は事務所整備のための備品購入に充てる予定である。また，このような予算措置は本年度のみである。

質疑
多額の繰越金を考えている予算は，数年後に破綻するのではないか。

回答
昨年度の剰余の大部分は大会運営の剰余によるものであり，これは支部活動の活性化のため数年に分割して支出することが，常議員会で決定している。通常の支部運営は剰余を充当せずに行っているので，その心配はない。

5．支部功労会員表彰
東北支部表彰規程により，佐藤平氏，外山隆吉氏，浅利昭男氏，佐藤昭夫氏の４名の表彰が行われた。

6．設計競技「新世紀の田園居住」支部入選者表彰
桝岡和夫審査委員長の講評の後，作品「田園を愛で，田園に住む」により田中大朗氏，ならびに作品「生業の生態系を作る」により畔上順平氏の２名の表彰が行われた。

以上で，司会者が閉会を宣言し，終了した。

以　上

研究部会活動報告

歴史・意匠部会

部会長　**高 橋 恒 夫**

2001 年度の歴史・意匠部会の活動は幹事会 3 回、部会 2 回を開催した。このうち 3 月 8 日に開かれた部会に合わせて、当部会主催の研究会「日本建築の空間について」を開催した。講師は秋田県立大学の安原盛彦教授にお願いした。法隆寺伽藍の見方として、参道に沿ってアプローチしながれ視界に入ってくる空間構成のすばらしさや源氏物語の空間読解、茶室の光の取り入れ方などについて、ご自身の著作の内容も紹介しながらお話いただいた。日本人の感覚や設計の意図性について改めて考えさせられた研究会となった。

なお、建築歴史・意匠委員会では、インターネットによるデータ入力によって「歴史的建築総目録作成」の検討を行ってきたが、2001 年から各支部の歴史・意匠部会の委員によるデータ入力が始まった。まだ、問題点も多いので、修正も加えながらの試行となっているが、ご意見などありましたら部会までお寄せ下さい。

建築計画部会

部会長　**若 井 正 一**

建築計画部会の本年度の活動は、平成 14 年度からの学校教育における完全週 5 日制のスタートを目前に控え、郡山駅前の再開発ビルに開校したばかりの福島県立郡山萌世(ほうせい)高等学校を会場にして見学研究会「学校建築の今・これから」を平成 14 年 2 月 16 日（土）に開催した。

見学会は、建物の高さが 133mの再開発ビル（通称、ビッグアイ）内の 8～14 階に開設された県立高校という話題性とともに、単位制課程による柔軟な学習を実践している新しいタイプの定時制・通信制高校としても注目されている同高校の建物内を、参加者が 2 班に分かれて同高校の先生方に約 1 時間にわたり案内していただいた。

研究会は、見学会終了後に同高校 14 階の大会議室で開催された。その内容と講師陣は、次のとおりであった。

1) 主旨説明　若井正一（日本大学教授）
2) 学校建築を取り巻く様々な状況
高橋鷹志（新潟大学教授・東京大学名誉教授）
3) 学校教育活動と空間・インテリアについて
梶田尚令（文教施設協会研究部長）

4) 新しい高等学校の現状
三好祥夫（郡山萌世高等学校校長）
司会：　市岡綾子（日本大学）

各講師からは、学校完全週 5 日制を目前にした少子化の現状、学校用家具 JIS の大幅改定、教室規模の適正化などについて今後の問題点や方向性が指摘された。質疑応答では、1 学級児童・生徒数の現状と今後のあり方、オープンスクールと音の問題など学校の教室規模や施設設備に関する事項について意見交換された。また、今回言及できなかった学校安全などの今日的問題については、次年度の研究会などで継続して検討することとした。

今回の見学研究会の開催は、企画立案から広報までの時間がなかったにもかかわらず、学校建築に関心のある建築家や家具メーカー、学生など約 40 名が参加した。

地方計画部会

部会長　**相 羽 康 郎**

2001 年度のテーマ「東北のまちとまちづくり」

建築学会の地方計画部会メンバーの関心とメンバーそのものが、都市計画学会の 50 周年研究分科会（地方都市マスタープラン）のそれと重複していることもあって、2001 年 11 月に行われた都市計画学会５０周年記念ワークショップ「計画型都市計画の確立と計画力の上達へ」が終了するまでは、地方計画部会としての独自の活動としてではなく、関連するかたちで行ってきた。

2000 年度北東北と南東北に分けて開催した市町村ワークショップにおける報告から、いくつかの特色のある市町村のまちづくりの実務について、50 周年記念ワークショップの原稿を部会委員にお願いすると同時に、そのパネラーとして 10 名弱の部会委員が参加した。このワークショップを通じて東北のまちとまちづくりに関連しても、多くの知見を得ることができた。

このような経緯から、引き続き上記のテーマに沿って、地方計画部会の活動を継続する予定である。地方計画部会としての独自の活動は今後に委ねられており、改めて展開を図る予定である。具体的にはメールを通じての情報交換活動が主体になるが、さらに対象とするまちを拡大したう

えで、「東北のまちとまちづくり」に関する情報収集を分担して行い、建築学会東北支部の会員に提供できるものにまとめる予定である。

すでに都市計画学会の３年間の研究で収集した、東北地方の市町村アンケート結果等のデータがあり、これらを再編集して基本的なデータベースとして活用することも考えられる。新たな情報収集活動を生かして、地方計画部会としてのまとめ方、および表現方法等についてメール等で協議し、支部会員に役立つものに仕上げたいと考えている。

構造部会

部会長　**小 川 淳 二**

本年度、当構造部会では２回の部会を開催し、構造技術や最近の話題に関する情報交換および意見交換を行った。

2001.11.8 に開催された第１回の部会では、山口育雄委員（東北大学）から「ＣＦＴ構造の現状」と題して、ＣＦＴ構造技術全般の説明および現在までに施工されたＣＦＴ造建物の統計データなどに関する情報提供がなされた。また、山口委員がこれまでに行ってきたＣＦＴ構造関連の研究が紹介され、今後より合理的な構造設計を行うに当たって、現在行っている長方形断面柱に関する研究が重要であることが示された。

また、その他の議題として、佐藤健委員（東北大学）から現在学会本部で進められている災害委員会に関する説明がなされ、構造部会委員の大部分が災害委員会東北支部のメンバーとしてリストアップされていることや今後の活動計画（案）が報告された。

第２回の部会（2002.3.7）では最近の話題を取り上げ「ＷＴＣの崩壊」と題し、今川憲英氏（ティアイエスエンドパートナーズ）をお招きして、ＷＴＣの崩壊原因の考察や今川氏が行った 1/200 模型による構造実験について説明していただいた。また、Karkee Madan 委員（秋田県立大学）からはＷＴＣの下部構造について、当該地の地盤状況、その施工からＷＴＣ崩壊による問題点、現在の復旧状況などが説明された。なお、本部会は日本建築構造技術者協会東北支部の後援を受けた講演会として開催し、部会委員を含め約 60 名の参加者があった。

環境工学部会

部会長　**内 海 康 雄**

1. 部会開催

部会の会合は、計３回開催された。4/16 第１回（東北支部）、6/16 第２回（秋田県立大学）、1/29 第３回（東北支部）である。

具体的な活動を企画・実行すると共に、部会からの関係分野へのITを利用した情報発信などについても検討した。本年度の研究事業テーマは「建築の省エネルギー計画に関する調査研究」であり、これまでに作成されている東北地方諸都市の省エネルギー対策に関する資料を基にして、来年度に講演会を企画している。

2. 研究会

研究会を 4 回開催した。参加者はそれぞれ 65～120 名程度であった。内容は、6/29 第 33 回東北環境設備研究会「環境共生と地域づくり」、10/17 第 34 回東北環境設備研究会「空気調和･衛生設備の環境負荷削減対策」、1/21 第 35 回東北環境設備研究会 「グローバル二酸化炭素リサイクルー地球温暖化を防ぐクリーンエネルギーー」、3/1 市民向け公開シンポジウム「貴重な水を考えよう」である。いずれも会場から活発な意見や質問があり、成果が挙がったものと考えられる。

3. 見学会

県内外において計３回行われた。6/16 秋田県立大学キャンパス（参加者 32 名）、7/26 前田建設工業㈱東北支店（参加者 51 名）、12/14 太陽熱利用床暖房設備を持つ総合学科の高等学校　宮城県立迫桜高等学校（参加者５８名）であった。各見学会とも好評であり、予定の定員を超える申し込みがあった。環境工学や建築設備に関係する方々の関心の高さを示すものと考えられる。

材料部会

部会長　**月 永 洋 一**

研究課題として「建築材料学の教育ツールに関する調査研究」を掲げた。本課題においては、技術者教育認定制度を見据え、現在の建築材料学教育を再考するとともに、新たな視点から整理・分析し、建築材料学教育のための教材と教育プログラムについて検討した。具体的課題は次のとおりであり、各課題ごとにワーキンググループを結成して検討した。なお、本課題については検討する項目が多く、次年度も継続するものとして作業を進めている。

1）建築材料教育の現状分析
2）建築材料用教材のデータベース化
3）建築材料テキストの作成

これら課題についての検討経過は以下のとおりであり、第２回部会においては別途に講演会を併行して開催した。

１. 第１回部会（2001 年 6 月 16 日、秋田県立大学）
　(1) 活動方針および研究課題について
２. 第２回部会（2001 年 9 月 7 日、東北大学）
　(1) 具体的研究課題、担当者および進め方について
　(2) 講演会

題目：「若材齢セメント硬化体の収縮問題に関する研究の国際的動向」

講師：Konstantin KOVLER 博士（テクニオン・イスラエル工科大学）

３. 第３回部会（2001 年 2 月 7 日、学会支部事務局）
　(1) 各作業の中間報告と今後のスケジュールについて

4.第４回部会（2002 年 3 月、通信会議）
(1) 本年度の活動総括と次年度の活動計画について

施工部会

部会長　**田 代　侃**

2001 年度日本建築学会支部研究補助費を受けて「東北地方の建築施工における環境負荷低減に関する調査研究」を行い、報告書「建設副産物の処理とリサイクルの現状」を刊行した。このテーマは 2000 年度より継続して調査研究してきたものである。報告書の構成は次のようになっている。

1　緒言
2　建築工事における施工会社の取組み事例
3　東北地方の産業廃棄物処理施設・処理業者の紹介
4　東北地方の産業廃棄物の発生量と処理状況
5　特殊な建設副産物の処分方法について
6　建設用リサイクル製品の紹介
7　研究者の取組み
8　結語

この報告書が東北地方の建設副産物の処理とリサイクルの現状について各方面の理解を深め、建築生産に携わる日本建築学会東北支部会員に役立つことを期待している。

2001 年度に開催した施工部会は次の通りである。

第 102 回施工部会　(5 月 15 日、支部会議室、出席者 13 名)　(1) 1999 年度活動報告および決算報告　(2) 2000 年度事業計画および予算　(3) 建築施工における環境負荷低減に関する調査研究の方針と予定について

第 103 回施工部会　(7 月 17 日、福島リサイクルセンター、出席者 12 名)　(1) 見学会バス中にて調査研究方針の再検討　(2) 福島リサイクルセンターの見学

第 104 回施工部会　(10 月 16 日、支部会議室、出席者 9 名)　(1) 調査研究の進捗状況中間報告　(2) 調査研究報告書の編集、執筆要項の検討

第 105 回施工部会　(12 月 19 日、支部会議室、出席者 14 名)　(1) 報告書原稿の執筆状況と内容の説明

建築デザイン教育部会

部会長　**伊 藤 邦 明**

近年に到り建築教育改革の動きが具体性を帯びてきた。まともに図面の描けない学 生 が大量に卒業していく現実、建築を設計したこともない教官が設計教育を担当せざるを得ない現実など,常識的に見て社会に通用するとは思えない現実のある一方、世界の建築教育と は あまりに隔たりのある教育内容、世界の生産システムとは異なった日本独特の設計 施工体制を前提にせざるを得ない教育評価など、世界とのズレの問題が大きく認識されてきたと言わねばならない。勿論我が方にも良い面はある。災害国特有の結果として 構造重視の教育は当然のこととして人々の支持をうけてきたし、資源の少ない国土を考えれば環境設備教育は今後ますます強化されてしかるべき分野とも言える。要はバ ランスの問題に行くつくのではあろうが、行政改革同様言うは易く行うは難しの面を 十分にもっている。多くの議論を先行して職能資格と教育を連動させて文部科学省と 経済産省のバックアップによる JABEE(Japan Accreditation Bureau for Engineering and Education) が主要学会の参加を得て 2000 年度に立ち上がったが、この問題に東北支部デザイン教育部会ではいちはやく取り組み、いくつかの提言を学会中央に 行ってきたことは昨年の報告にも記した通りである。この延長上で当部会はデザイン教育におけるキィワードの策定など重要な提案を中央に行ってきたが、本年 JABEE 認定の試行が始まり、建築学科としては大阪市立大、広島大、日大理工学部が名乗りを上げ 建 築学会により認定試行作業が実施された。東北支部からはデザイン部会長の伊藤が参加、情報の提供を部会委員に行ってきたが、2002 年１月２６日には島田良一都立大名誉教授および富樫さとし大阪市立大教授の来仙を頂き、参加者 20 名によるシンポジュ ウムが開かれた。島田、冨樫両氏の当事者を囲んだやり取りによって、現実に進む JABEE 流教育改革の状況や問題点が参加者に伝えられ、各大学独自の教育改革に対処する切っ掛け作りに貢献したものと私なりに理解することのできる結果を得た。

支所だより

青森支所

支所長　**松 代　眞**

2001 年　度の青森支所の活動状況について報告いたします。

先ず、６月に幹事会を開催し、今年度の事業計画を検討し「全員協議会」、「東北建築賞受賞作品展示会」及び「親と子の建築講座」の開催を決定いたしました。

７月には恒例の全員協議会を開催し、幹事会で決定しました事業計画等を報告し、会員に協力をお願いするとともに親睦を深めたところであります。

また、８月２５日（土）には昨年度に引き続き、県立弘前工業高等学校との共催で「親と子の建築講座～弘前を知る Part２～棟梁建築家“堀江佐吉”の業績をたどる」を開催しました。当日は３６名の親子の参加をいただき、明治の棟梁建築家、堀江佐吉の作品（洋風建築物）を通して、郷土弘前を再発見するなど好評のうちに終了することができました。

2002 年度も引き続き、この講座を開催し多くの子供たちに、建築の持つ魅力などを伝えていきたいと考えております。

さらに、１０月には「東北建築賞受賞作品展示会」を八戸工業大学で開催し、好評を博したところであります。　今後とも、関係団体との連携を図りながら、支所活動を進めて参りたいと思います。

秋田支所

支所長　**呉　祐一郎**

2001 年度の秋田支所の活動状況について報告いたします。

例年、本支所主催で県や関係団体の後援を得て実施しております、県内の工業高校、建築専門学校等の学生や生徒を対象とした建築設計作品コンクールも３０回を数える事になりました。

今年度も県内各地の高校、専門学校から選抜された 17 点の応募があり、審査の結果優秀な作品に対して知事賞や建築学会支部長賞等が授与されるとともに、提出された作品を平成１４年３月１日から５日まで、秋田市の「けんみん住宅サロン」に於いて展示し、広く県民の方々に紹介いたしました。

併せて、当コンクールも３０回目を迎えた記念として県との共催と支部からの多大の援助を得て「木造建築フォーラム」を開催いたしました。

「次世代に語りつぐ木造建築の魅力」と題し、県内で活躍中のパネラー３名によるパネルディスカッションを行い、約２００名の参加者がありテーマ、パネラーとも時宜を得たものと好評を博しました。

また、当支所にとっても地域の建築界へ果たせる役割についても再認識できる機会になり、今後の支所活動への活力になるものと考えております。

また、平成１４年３月８日から１９日まで第２１回東北建築賞作品展を開催したところ、多数の来場をいただき好評を得ました。

今後とも、関係団体や学校・研究所等との連携を深め、地域に根ざした支所活動を進めて参りたいと思います。

岩手支所

支所長　**村 主 英 明**

2001 年度の岩手支所の活動計画について報告します。

今年度の活動としては、例年開催されている盛岡市主催の「第２５回盛岡市景観シンポジウム」が 11 月 16 日に「プラザおでって」で約１５０名の参加者を集めて開催され、当支所は後援のかたちで参加しております。

都市景観賞の表彰式の後「まちの肖像画～＜もりおか＞を描く～」と題したパネルディスカッションが開催され、過去 4 回のまとめとして盛岡の魅力の創出や盛岡らしさの景観について熱心な討論が行なわれました。

さらに、２月には、本支所の恒例事業となっている「第２８回県下工業高校卒業設計作品コンクール」を岩手県公共建築設計監理協会と共催で実施し、県下４校、１３件の応募の中から選考を行った結果、盛岡工業高等学校建築科３年生の村上裕香さんと同校に、学会支所長賞としての賞状と記念品を送ることとなりました。

また、同コンクールの展示会に併設して、第２１回「東北建築賞受賞作品展示会」を「プラザおでって」において開催し、来場者から好評を博したところです。

当支所では、来年度の 6 月 15 日(土)に、本県において実施が予定されている支部研究報告会及び関連イベントの「リレー講演会」の開催を支援するなど、今後とも機会をとらえて学会と地域社会との交流を図る諸事業を開催していきたいと考えております。

山形支所

支所長　**鈴 木 紘 一**

2001 年度の山形支所の活動状況について報告いたします。

11 月中旬、「親と子の建築講座」を開催し、13 組 26 名の方々に参加していただきました。今回のテーマは建築ＣＡＤによるアニメーション作成で、小住宅モ

デルを基に内観パース、外観パース、最終的にはウォークスルーアニメーションまでの操作体験を行いました。子供たちは難しいＣＡＤ操作もすぐ慣れ、自分の住みたい部屋などデザインに凝る子供たちもおり、終了予定時刻を上回る状況でした。

また１月上旬には恒例となりました「東北建築賞受賞作品展示会」を開催しました。今年度は展示場所を山形駅西口地区に建設された新都心ビル「霞城セントラル」アトリウムに移し、多くの方々のご来場をいただきました。

来年度は好評だった「親と子の建築講座」を２つのテーマで実施する予定です。１つは３次元ＣＡＤによるウォークスルーアニメーションの体験です。２つ目は山形市内の歴史的建造物をオリエンテーション形式で見学するものです。毎日見慣れた街並みでも実はおもしろい建物がたくさんあり、子供達だけでなく大人達にも身近な建物に興味をもってもらう機会になればと考えております。２つとも子供たちに喜んでもらえる楽しいものになるように検討していきたいと思います。

今後とも、関係団体の協力をいただきながら、各企画を活発に進めていきたいと思ます。

福島支所

支所長　**宗像武久**

平成１３年度、福島県は「うつくしま未来博」の年でありました。この博覧会は、美しい福島県を創造するために県民･行政が一体となって推進する県民運動の一環として「参加型イベント」として開催されたものです。福島支所会員もそれぞれの立場で参加しており、学会活動のノウハウを生かし、県内の建築系高校生による「森と融合する２１世紀のまちコンテスト」や国内外の著名な建築家を招き開催した「環境共生都市に関するふくしま国際コロキュアム」を端正に格調高く仕上げていると自負しているところです。

さて、今年度の福島支所事業については、毎年行っていた「模型づくり講座」は休止となりましたが、東北建築賞作品賞パネル展と記念講演会は、福島県郡山市にオープンした駅前再開発ビルにおいて、定員を超える来場者を向かえ、予想を超える盛り上がりとなりました。

講演会では、福島県郡山市内の作品（太田綜合病院付属慢性疾患児家族宿泊施設ファミリーハウス桔梗）で受賞された惟建築計画の渡部和生さんに受賞作品と「光のシリーズ」と呼ばれる代表作品などを、また、「せんだいメディアテーク」工事現場の総括所長をされた熊谷組の佐々木君吉さんには、造船技術を活用した建築構造物とそうした技術を支える職人技について講演いただきました。設計と施工の両面から建築を見つめ直すよい機会を得ることができました。

なお、平成１４年度は、「模型づくり講座」の復活と東北建築賞関連の２大事業を軸に建築学会活動を行う予定です。皆様の参加をお待ちしております。

常議員会から

常議員 **浅 里 和 茂**

常議員会は総会に次ぐ支部の意思決定機関で，支部長と選挙により選出された14名の常議員で構成されている。会議は，必要に応じて支部長により任命された若干の企画運営委員・支部監事・支所長および事務局の出席を得て開催されている。昨年度からメーリングリストによる「ネットワーク会議」を重要議案の少ない常議員会にあてており，経費の節減に役立っている。ただし，支部長と総務・企画担当常議員で構成される総務会は，原則的に毎月開催しており，支部運営に支障をきたすことの無いように努めている。

本年度の支部活動を振りかえり，検討を行ってきた主な課題をここに挙げる。昨年度から引き続き，支部・支所活動の活性化を大きなテーマとして取り組み，いくつかの施策を企画し，実行に移してきた。

「みちのくの風　2002岩手」

これまで大学を会場として行ってきた支部研究報告会を大学所在地以外での開催を可能とすることとし，パネルディスカッションなどを同時開催することにより，一般への学会活動の貢献を図ることとした。開催にあたっては，これらを包含する冠名を設け，大学関係者はもとより，支所ならびに建築関連団体の協力を得ている。2002年は岩手県立大学を研究報告会場とし，さらに盛岡市にてパネルディスカッション，東北建築賞表彰ならびに記念講演などを開催する予定である。

「支部総会＋α」

支部総会に引き続き行われていた東北建築賞関連行事を前記の「みちのくの風　2002岩手」へ移すのに伴い，市民向けの講演会などを開催することとした。これも広く学会活動をアピールするためのものであり，さまざまな啓蒙活動の一環でもある。本年は「東北の地域性と地震災害　～来るべき地震災害に備えて～」をテーマに市民向けの内容で行う予定である。

「東北建築賞」

東北建築賞には作品賞，研究奨励賞，業績賞の３部門があり，多数の表彰を行ってきた。このうち研究奨励賞と業績賞に関して，対象者の門戸を広げるため要項の変更を行った。研究奨励賞では年齢制限をなくし，社会人大学院生や年齢を経てから研究生活に入った研究者にも機会を与えることとした。また，業績賞も特に制限を設けず，対象となる業績も建築に関わるさまざまな分野からとした。いずれの賞も受賞点数を以前よりも増やしている。この結果として，より多くの関係者からの応募と受賞となることを期待している。

「災害調査連絡会」

東北地方で発生した災害に学会支部として迅速に対応できるよう，「災害調査連絡会」を発足させた。対象とするのは地震災害ばかりではなく，その他の自然災害や都市災害なども含んでいる。そのため幹事会のメンバーは，各研究部会からの代表者で構成されている。また，活動内容も被害調査のみならず広報や関連講演会などの開催，他団体への支援など，多岐に渡っている。幹事会を中心に支所，行政，本部災害委員会との連携を図りながらの活動となる。

以下は常議員会の主な議題である。

[2001年3月ネットワーク会議] 東北建築賞（研究奨励賞）応募資格，2001年度設計競技全国審査員選出，2001年度設計競技支部審査員選出，2000年建築学会大会剰余金取扱

[4月] 常議員選挙結果報告，2000年度決算報告および監査報告，2001年度予算案，支部総会準備，新役員役割分担，東北建築賞選考委員常議員担当者

[5月] 支部総会及び懇親会準備状況，支部年報編集状況，日本建築学会賞（作品）受賞者記念講演会取扱，支部ＷＥＢ内規

[6月] 新旧役員紹介並びに任務分担，支部研究報告会報告，「作品選集2002」応募結果報告，年間会議予定

[7月ネットワーク会議] 仙台市ワークショップ共催依頼，特色ある支部活動企画案，来年度支部研究報告会開催地

[9月] 支部選挙管理委員会委員選出，2002年度日本建築学会大賞業績候補推薦，（仮称）日本建築学会東北支部災害調査連絡会枠組，2002年度支部研究報告会開催地決定，支部総会時イベント案

[10月ネットワーク会議] 「作品選集2002」掲載作品決定報告，設計競技支部審査会結果報告，2002年度日本建築学会文化賞候補推薦，支部研究報告会論文募集要項改定，2002年度支部設計競技審査員決定

[11月] 特色ある支部活動事業計画採択報告，平成14年度科学研究費補助金申請，代議員・常議員候補者届出状況，東北建築賞研究奨励賞選考方法内規改定，次期作品選集選考委員選定

[12月] 2002年度支部研究補助費申請部会決定，2002年度支部研究報告会

[2月ネットワーク会議] 2002年度講習会開催企画，支部年報２２号発刊計画，東北建築賞（作品賞）候補募集要項改定，支部研究報告会進捗状況，支部ホームページ掲載に関わる内規

[3月] 第22回東北建築賞選考結果報告，支部功労会員選定，学術委員会委員支部代表選出，2002年度予算（案），支部研究報告会の進捗状況

支部役員名簿

東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役 割	2001年度 (2001 年 6 月～2002 年 5 月)	2002年度 (2002 年 6 月～2003 年 5 月)
支部長	岩崎 博 (日本大学)	鈴谷二郎 (東北工業大学)
総務企画	浅里和茂 (日本大学) 渡邊浩文 (東北工業大学) 永井康雄 (東北大学)	永井康雄 (東北大学) 持田 灯 (東北大学) 最知正芳 (東北工業大学) 松井壽則 (日本大学)
社会文化	二郷 精 (設計集団空) 鹿戸 明 (東北文化学園大学)	高島成侑 (八戸工業大学) 御供政敏 (エムアイティ建築研究所) 井上高秋 (国土交通省)
学術教育	橋本典久 (八戸工業大学) 松本真一 (秋田県立大学) 沼野夏生 (東北工業大学)	松本真一 (秋田県立大学) 沼野夏生 (東北工業大学) 野崎淳夫 (東北文化学園大学)
会計会員	鈴木利夫 (JR 東日本) 相沢清志 (仙台市)	相沢清志 (仙台市) 渡邊隆一 (JR 東日本)
図書情報	八町雅康 (日本大学) 持田 灯 (東北大学) SanjayPAREEK (日本大学)	SanjayPAREEK (日本大学) 金子佳生 (東北大学)
企画運営	細田洋子 (仙台市) 櫻井 宏 (宮城高専)	細田洋子 (仙台市)
事務局	伊藤章子	伊藤章子

東北支部会員数 (2002 年 4 月 1 日現在)

名誉会員	1 名	準会員	8 名
終身会員	40 名	賛助会員	16 法人
正会員 (個人)	1327 名		
正会員 (法人)	88 法人		

東北支部監事

2001 年 6 月～2002 年 5 月

土方吉雄 (日本大学)

滝田 貢 (八戸工大)

2002 年 6 月～2003 年 5 月

滝田 貢 (八戸工大)

鈴木利夫 (JR 東日本)

東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2001 年4月 ～ 2003 年 3 月	遠藤延安 (仙台市都市整備局都市計画課長) 小川淳二 (秋田県立大学教授) 出村克宣 (日本大学教授) 寺本英治 (前国土交通省東北地方整備局営繕部長)
2002 年4月 ～ 2004 年 3 月	鈴木利夫 (東日本旅客鉄道東北工事事務所建築課長) 狩野勝重 (日本大学教授) 飯淵康一 (東北大学教授 阿部良洋 (東北工業大学教授)

研究部会長

研究部会	部 会 長 (2002 年度)
構 造	小川淳二 (秋田県立大学教授)
材 料	月永洋一 (八戸工業大学教授)
建築計画	若井正一 (日本大学教授)
地方計画	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
歴史意匠	高橋恒夫 (東北工業大学教授)
施 工	山田大彦 (東北大学教授)
環境工学	内海康雄 (宮城工業高等専門学校教授)
ﾃﾞｻﾞｲﾝ教育	伊藤邦明 (東北大学教授)

支所長

支 所	支 所 長 (2002 年度)
青森支所	松代 眞 (青森県土木部営繕課長)
秋田支所	呉祐一郎 (秋田県建設交通部建築住宅課長)
岩手支所	村主英明 (岩手県土木部建築住宅課長)
山形支所	鈴木紘一 (山形県土木部建築住宅課長)
福島支所	宗像武久 (福島県土木部参事)

日本建築学会東北支部

自 2001 年4月1日

2001 年度事業報告

至 2002 年3月 31 日

〈事務の部〉

総　　会	１．2000 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 ２．2001 年度事業計画・予算案 ３．その他（出席者 77 名、委任状含）	2001 年５月 26 日 ハーネル仙台
諸　会　合	総会（1）、常議員会（9）、支所長会議（1）、東北建築賞作品賞選考委員会（3）、東北建築賞研究奨励賞選考委員会（1）、東北建築賞業績賞選考委員会（2）、設計競技審査会（1）、選挙管理委員会（1）作品選集選考委員会（2）	（　）は回数
代議員半数改選	（留）井上範夫、黒田浩司、志田正男、吉田利喜雄 （新）遠藤延安、小川淳二、出村克宣、寺本英治	1999 年 11 月～2002 年 3 月 2001 年４月～2003 年 3 月
支部長改選	（留）岩崎　博	2000 年６月～2002 年５月
常議員半数改選	（留）浅里和茂、鈴木利夫、二郷　精、橋本典久、八町雅康、鹿戸　明、渡邊浩文 （新）相沢清志、SanjayPAREEK、高島成侑、永井康雄、沼野夏生松本真一、持田　灯	2000 年６月～2002 年５月 2001 年６月～2003 年５月
企画運営委員	細田洋子、櫻井　宏	2001 年６月～2002 年５月
支 部 監 事	土方吉雄、滝田　貢	2001 年６月～2002 年５月

〈支部事業〉

研究委員会	［部会名］　［部会長］　　［テーマ名］ 構　　造：小川淳二　耐震補強の技術向上を考える 材　　料：月永洋一　新たな建築材料学教育のための調査研究 建築計画：若井正一　２１世紀にむけた生活環境の創造 地方計画：相羽康郎　高齢化社会のまちづくりを考える 歴史意匠：高橋恒夫　家屋文鏡再読 環境工学：内海康雄　建築の省エネルギーに関する調査研究 施　　工：田代　侃　新素材と施工技術の研究 建築デザイン教育：伊藤邦明　建築設計教育の充実を世界的観点から再調査する	
支部研究助成金による研究	東北地方の建築施工における環境負荷低減に関する調査研究 施工部会（研究代表者　田代　侃）	2001 年４月～2002 年３月
支部研究報告会	2001 年度東北支部研究報告会、研究報告集第 64 号刊行 発表題数 130 題	2001 年６月 16 日～17 日 秋田県立大学本荘キャンパス
支部主催 支部共催 イベント	１．支部主催 １）建築文化週間事業 「堤町たんけんワークショップ」（仙台市） ２）第 12 回「東北建築作品発表会」の開催（仙台市）出品 27 点 ３）第 22 回「東北建築賞」の選考　作品賞 4 点、作品奨励賞 4 点業績賞１点、研究奨励賞３点 ２．支部共催 １）親と子の建築講座 ①郡山会場「建築のひみつ“かたちとつよさ”」 ②仙台会場「南材木町・河原町たんけんワークショップ」 ③弘前会場「棟梁建築家堀江佐吉の業績をたどる」 ④山形会場「建築 CAD によるアニメーション作成」	2001 年６月 23 日 2001 年 10 月 20 日 2001 年 10 月 27 日 2001 年 8 月 24 日 2001 年 8 月 25 日 2001 年 11 月 10 日
	２）第 21 回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、秋田市、郡山市	2001 年 10 月～2002 年 3 月

研究部会主催	（事業多数、各研究部会活動報告参照）	
表　　彰	１．第 21 回東北建築賞 　作品賞　3 点、審査員特別賞 3 点、業績賞１点 ２．支部功労会員 　佐藤　平、外山隆吉、浅利昭男、佐藤昭夫	2001 年５月 26 日
支 所 活 動	青森支所 ・全員協議会 ・第２１回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・親と子の建築講座「棟梁建築家堀江佐吉の業績をたどる」 ：弘前市 秋田支所 ・役員会 ・第 30 回建築学科生徒による建築設計作品コンクール：秋田市 ・第 21 回東北建築賞作品展示会：秋田市 岩手支所 ・第 21 回東北建築賞作品展示会：盛岡市 ・第 28 回県内工業高校生徒設計製図作品コンクール後援 ・第 32 回県下工業高校設計作品コンクール：盛岡市 山形支所 ・第 21 回東北建築賞作品展示会：山形市 ・親と子の建築講座「建築ＣＡＤによるアニメーション作成」 ：山形市 福島支所 ・第 21 回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・第 21 回東北建築賞受賞記念講演会：郡山市 ・親と子の建築講座「建築のひみつ『かたちとつよさ』」：郡山市	 2001 年 10 月 2001 年８月 24 日 2002 年 2 月 2002 年３月 2002 年２月 2002 年２月 2002 年２月 2002 年１月 2001 年 11 月 10 日 2002 年２月 2002 年２月 2001 年 10 月 27 日
刊 行 活 動	支部年報第 21 号発刊 東北支部研究報告集第 64 号発行 東北建築作品集（第 12 号）発行	2001 年５月 26 日 2001 年 6 月 16 日 2001 年 10 月 20 日

〈支部事業〉

講　習　会	１）建築基礎構造設計指針改定講習会	2001 年 10 月 10 日 仙台市産業・情報プラザ
展　示　会	全国・大学高専卒業設計展示会 　仙台市、八戸市、郡山市、山形市、本荘市	2001 年 9 月～2002 年１月
審　査　会	１）2001 年度支部共通　日本建築学会設計競技 　テーマ：「子どもの居場所」 　応募数５点、支部入選１点	2001 年 10 月 16 日

日本建築学会東北支部

自 2002 年4月1日

2002 年度事業計画（案）

至 2003 年3月 31 日

〈事務の部〉

総　　会	１．2001 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 ２．2002 年度事業計画・予算案	2001 年５月 25 日 ハーネル仙台
諸　会　合	総会（１）、常議員会（９）、支所長会議（１）、東北建築賞作品賞選考委員会（３）、東北建築賞研究奨励賞選考委員会（１）、東北建築賞業績賞選考委員会（２）、設計競技審査会（１）、選挙管理委員会（１）作品選集選考委員会（２）	（　）は回数
代議員半数改選	（改　選）遠藤延安、小川淳二、出村克宣、寺本英治 （非改選）狩野勝重、鈴木利夫、飯淵康一、阿部良洋	2003 年３月改選 2004 年３月改選
支部長改選	（改　選）岩崎　博 （非改選）鈴谷二郎	2000 年６月～2002 年５月 2002 年６月～2004 年５月
常議員半数改選	（改　選）相沢清志、SanjayPAREEK、高島成侑、永井康雄、沼野夏生 松本真一、持田　灯 （非改選）井上高秋、金子佳生、最知正芳、野崎淳夫、松井壽則 御供政敏、渡辺隆一	2003 年５月改選 2004 年５月改選
企画運営委員	細田洋子	2002 年４月～2003 年３月
支 部 監 事	滝田　貢、鈴木利夫	2002 年６月～2003 年５月

〈支部事業〉

研究委員会	［部会名］　［部会長］　　［テーマ名］ 構　　造：小川淳二　構造技術における新しい試み 材　　料：月永洋一　建築材料学の教育ツールに関する調査研究 建築計画：若井正一　２１世紀にむけた生活環境の創造 地方計画：相羽康郎　東北のまちづくり 歴史意匠：高橋恒夫　歴史的建築総目録作成 環境工学：内海康雄　建築の省エネルギーに関する調査研究 施　　工：山田大彦　新材料・工法と施工技術 建築デザイン教育：伊藤邦明　建築設計教育の充実を世界的観点から 再調査する 災害調査連絡会：田中礼治	
支部研究助成金による研究	地震マイクロゾーネーション地図を用いた地震防災に関する調査研究－ 秋田県本荘市の地盤・木造建物の微動観測 － 構造部会（研究代表者　小川淳二）	2002 年４月～2003 年３月
支部研究報告会	2002 年度東北支部研究報告会、研究報告集第 65 号刊行 発表題数 124 題	2002 年６月 15 日～16 日 岩手県立大学
支部主催 支部共催 イベント	１　支部主催 １）特色ある支部活動・環境共生概念啓蒙のための子供向け ワークショップ「クリマアトラスをつくる」 ２）建築文化週間事業 「仙台まちかど博物館サミット」（仙台市） １）第 13 回「東北建築作品発表会」の開催（仙台市） ２）第 23 回「東北建築賞」の選考 ２　支部共催 １）親と子の建築講座 ①郡山会場「建築のひみつ“かたちとつよさ”」 ②仙台会場「奥州街道まちたんけん　通町から堤町まで」 ③弘前会場「ダンボールハウスを造ろう」	 2002 年 10 月 19 日 2002 年 10 月 5 日 2002 年 10 月 2002 年 8 月 2002 年 7 月 2002 年 11 月

	④山形会場「コンピューターを使って家をデザインしよう」 ⑤山形会場「やまがた建物めぐり―歴史的建物を歩く―」	2002 年 11 月
	２）第 22 回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、秋田市、郡山市	2002 年 10 月～2003 年 3 月
研究部会主催	１．シンポジウム ２．その他、各部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催	
表　　彰	１．第 22 回東北建築賞 作品賞　4 点、作品奨励賞３点、業績賞１点、研究奨励賞３点 ２．支部功労会員（個人） 阿部英夫、大濱嘉彦、小栗治男、黒田浩司、柴田明徳 鈴谷二郎、関　信男、橋本　寛 支部功労会員（法人） 30 年以上継続　18 社、20 年以上継続 8 社　合計 26 社	 2002 年６月 15 日 2002 年５月 25 日
支 所 活 動	青森支所 ・全員協議会 ・第 22 回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・親と子の建築講座「ダンボールハウスを造ろう」 ：弘前市 秋田支所 ・役員会 ・第 31 回建築学科生徒による建築設計作品コンクール：秋田市 ・第 22 回東北建築賞作品展示会：秋田市 岩手支所 ・第 22 回東北建築賞作品展示会：盛岡市 ・第 29 回県内工業高校生徒設計製図作品コンクール後援 ・第 33 回県下工業高校設計作品コンクール：盛岡市 山形支所 ・第 22 回東北建築賞作品展示会：山形市 ・親と子の建築講座「コンピューターを使って家をデザインしよう」「やまがた建物めぐり―歴史的建物を歩く―」：山形市 福島支所 ・第 22 回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・第 22 回東北建築賞受賞記念講演会：郡山市 ・親と子の建築講座「建築のひみつ『かたちとつよさ』」：郡山市	 2002 年 10 月 2002 年７月 2003 年２月 2003 年３月 2003 年２月 2003 年２月 2003 年２月 2003 年１月 2002 年 11 月 2003 年２月 2003 年２月 2002 年 10 月
刊 行 活 動	支部年報第 22 号発刊 東北支部研究報告集第 65 号発行 東北建築作品集（第 13 号）発行	2002 年５月 25 日 2002 年６月 15 日 2002 年 10 月５日

〈支部共通事業〉

講　習　会	JASS５鉄筋コンクリート工事改定ならびにプレキャスト複合コンクリート工事指針講習会	2003 年２月
展　示　会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市、本荘市	2002 年９月～2003 年１月
審　査　会	2002 年度支部共通　日本建築学会設計競技 テーマ：「外国人と暮すまち」支部選考	2002 年７月

㈱阿部重組
阿部建設㈱
青柳工業㈱
秋山建設㈱
伊藤組土建㈱
前田コンクリート工業㈱
大槻電設工業㈱
㈱大林組
㈱関・空間設計
㈱奥村組
鹿島建設㈱
㈱久米設計
㈱熊谷組
五洋建設㈱
佐藤工業㈱
清水建設㈱
仙建工業㈱
㈱大気社
大成建設㈱
大末建設㈱
太平電気㈱
㈱竹中工務店
鉄建建設㈱
戸田建設㈱
㈱ユアテック
西松建設㈱
日産建設㈱
㈱間組
㈱フジタ
㈱深松組
堀江工業㈱
前田建設工業㈱
升川建設㈱
三菱建設㈱
三菱地所設計
㈱山下設計
東亜建設工業㈱
㈱ウンノハウス
㈱梓設計
㈱伊藤喜三郎建築研究所
東日本興業㈱
佐藤工業㈱
北洲ハウジング
㈱設計集団空
東北ポール㈱
㈱昴設計
㈱みちのく設計
㈱針生承一建築研究所
東北ドック鉄工㈱
㈱盛総合設計
千田総兵衛建築事務所
㈱内海建築事務所
㈱蔵王建築設計事務所
㈱都市構造研究センター
㈱東北設計計画研究所
㈱本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室
㈱泉パークタウンサービス
㈱清水公夫研究所
㈱エムアイティ建築研究所
旭化成建材㈱
㈱東北開発コンサルタント
東日本旅客鉄道㈱東北工事事務所
㈱I.N.A 新建築研究所
はりま建設㈱
高吉建設㈱
東北電力㈱
日本大学図書館
㈱NTT ファシリティーズ
青森建設協同組合
八戸工業大学
（社）日本電設工業協会
東北空気調和衛生工事業協会
東北文化学園大学
住宅金融普及協会
日刊建設産業新聞社
仙台デザイン専門学校
東北芸術工科大学図書館
宮城県設備設計事務所協会
㈱ティー・アール建築アトリエ
日本原燃株
山形県立図書館
正和工業㈱
㈱志賀設計
㈱田村設計室
㈱佐藤総合計画
㈱氏家建築設計事務所
㈱ダイテック
㈱楠山設計
東北文化学園大学
東開クレテック㈱
㈱若松六本木設計
エヌ・ティ・ティ都市開発㈱
大木工務店
オギノ
蔭山工務店
東北設備工業㈱
滝谷建設工業株
ムツ電
三友電設㈱
東新電気工業㈱
オオバ工務店
元旦ビューティー工業㈱

日本建築学会
東北支部年報
2002 年 5 月 25 日発行　第 22 号　　**編集責任者**　SanjayPAREEK